



ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.

個人投資家様向け 会社説明資料

2026年 5月版

May 2026 Presentation Material

Tokyo Stock Exchange PRIME section STOCK CODE : 9619



JPX-NIKKEI Mid Small

01

イチネングループについて

- 会社概要 P.4
- 事業概要 P.5
- イチネングループの沿革 P.6

02

イチネングループが向かうところ

- イチネングループの強み P.8
- PBR向上に向けた対策 P.9
- イチネングループ経営方針及び
中長期戦略 P.14

03

イチネングループの事業紹介

- 自動車リース関連事業 P.20
- ケミカル事業 P.21
- パーキング事業 P.22
- 機械工具販売事業 P.23
- 合成樹脂事業 P.24
- 農業関連事業 P.25
- その他事業 P.27

04

決算報告・今期計画

- 2026年3月期 決算報告 P.29
- 2027年3月期計画（連結） P.34

05

株主還元について

- 配当方針 P.37
- 株価の推移 P.38

06

企業価値向上に向けた取り組み

- ESG・SDGsの取り組み P.40
- ウェブサイト・資料のご案内 P.42

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

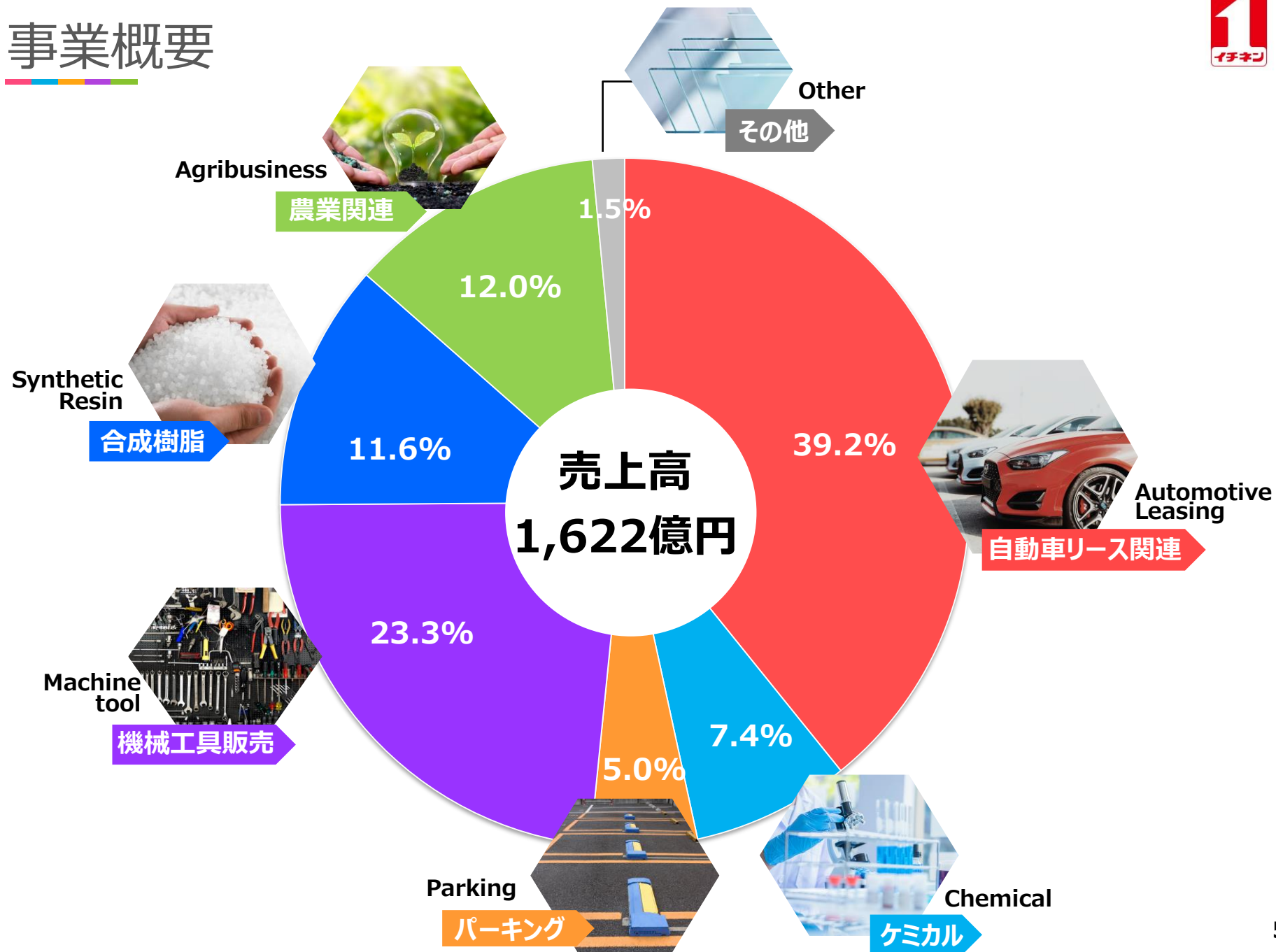
会社概要



- 商号 株式会社イチネンホールディングス
ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD
- 設立年月日 1963年（昭和38年）5月7日
- 本社所在地 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
- 代表者 代表取締役社長 黒田 雅史(くろだ まさし)
- 上場 東証プライム（証券コード：9619）
- 資本金 2,529百万円（2026年3月31日現在）
- 売上高 162,254百万円（2026年3月期連結実績）
- 決算月 3月
- 従業員数 連結2,067人（2026年3月31日現在）
- 経営理念 当社は、最高の品質とサービスで、より多くの顧客に満足を与え、適正な利潤を確保することにより、株主および従業員に報い、且つ社会に奉仕することを経営の基本理念とする。
- グループ
スローガン いちねんで、いちばんの毎日を。

当社は、一日、一日が最高の毎日（いちねんで、いちばんの毎日）となるように、グループの製品やサービスを通じて皆様に快適さをご提供するとともに、SDGs、脱炭素等の環境に配慮した製品・サービスの開発を進め、持続可能で豊かな社会に貢献できる事業の拡大を目指してまいります。

事業概要



沿革

イチネングループは石炭販売から新たな可能性を追求し、多様な事業を通じて、時代とともに発展してまいりました。



1930

創業

石炭から石油へ転換



- 1930 黒田重太郎商店を創業、石炭販売業を開始
- 1963 黒田商事(株)設立、EMGマーケティング(同)と販売代理店契約締結



1969~

自動車関連分野に参入

自動車分野を中心に成長



- 1969 商号を(株)イチネンに変更、自動車リース業を開始
- 1980 自動車メンテナンス受託事業を開始
- 1994 大阪証券取引所市場第二部(旧：新二部)上場
- 2000 野村オートリース(株)、アルファオートリース(株)をグループ会社化
- 2002 パーキング事業を開始
- 2004 (株)コーザイをグループ会社化、自動車・産業用ケミカル事業に参入
- 2005 東京証券取引所市場第一部、大阪証券取引所市場第一部上場
- 2006 タイホー工業(株)をグループ会社化、(株)コーザイと合併し、(株)タイホーコーザイ(現：(株)イチネンケミカルズ)に商号変更



2008~

多角化経営へ

自動車の変革を見据え、新たな事業へ参入



- 2008 持株会社体制へ移行、商号を(株)イチネンホールディングスに変更(株)イチネンパーキング営業開始(パーキング事業部を新設分割)
- 2009 黒田雅史が代表取締役社長に就任
- 2012 前田機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業に参入。(株)ジコー(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業に参入



2013

各事業の強化

M&Aを通じた事業多角化の強化

- 2013 タスコジャパン(現：(株)イチネンTASCO)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2014 (株)ミツモ製作所(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2015 東電リース(株)をグループ会社化、(株)イチネンTD リースに商号変更
- 2016 (株)イチネン農園を設立し、農業に参入
野村オートリース(株)とアルファオートリース(株)が、野村オートリース(株)を存続会社として合併



- 2017 グループの物流業務効率化を目的とし、株式会社イチネンロジスティクスを設立。(株)イチネンケミカルズ 研究開発センターを移転(神奈川県藤沢市)
- 2018 昌弘機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)及び(株)トヨシマ(現：(株)イチネンMTM)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2019 (株)イチネンとイチネンBPプラネット(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併(株)イチネン前田と(株)イチネンミツモ、(株)インドー、(株)イチネンSHOKO、(株)トヨシマが、(株)トヨシマを存続会社として合併し、(株)イチネンMTMに商号変更(株)イチネン農園の事業の一部を会社分割し、(株)イチネン 高知日高村農園を設立(株)アクセス(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化
- 2020 (株)浅間製作所(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業を強化

現在

- 2021 新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業に参入
- 2022 (株)オートリをグループ会社化し、パーキング事業を強化(株)イチネンMTMの事業の一部を(株)アクセスへ吸収分割により継承し、(株)アクセスは(株)イチネンアクセスへ商号変更(株)イチネンジコーと(株)浅間製作所は、(株)浅間製作所を存続会社として合併し、(株)イチネン製作所へ商号変更東京証券取引所市場再編に伴い、プライム市場に移行
- 2023 (株)イチネンパーキングと(株)オートリは、(株)オートリを存続会社として合併し、(株)イチネンパーキングへ商号変更マルイ工業(株)と日東エフシー(株)をグループ会社化し、合成樹脂事業・農業関連事業を強化
- 2025 日石硝子工業(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業を強化(株)イチネンと野村オートリース(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併
- 2026 新生ガラス(株)と日石硝子工業(株)が、新生ガラス(株)を存続会社として合併持分法適用関連会社であった太陽肥料(株)の株式を追加取得し、完全子会社化(農業関連事業を強化)



海外進出強化へ

P.12を参考

イチネングループは、これまで培った事業基盤と信頼のもとに、さらなる海外市場の開拓に挑みます。



01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループの向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

1

単一事業に
偏らない

多角化経営

2

収益機会の
創出

二ツチ市場の開拓

109億円

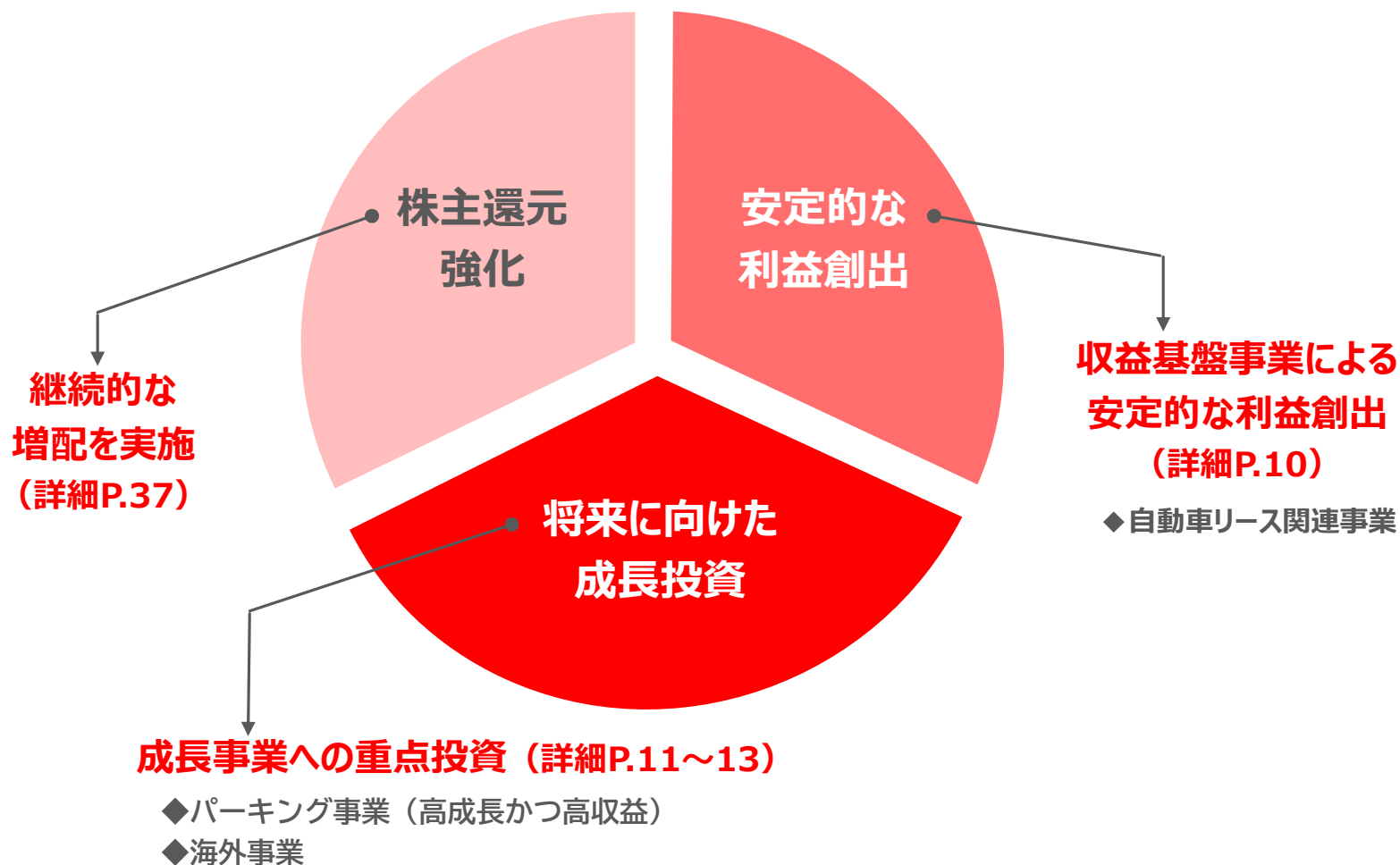
前年同期比6.3%増

連結営業利益

23期連続の増益



イチネングループのPBR改善策 3本柱



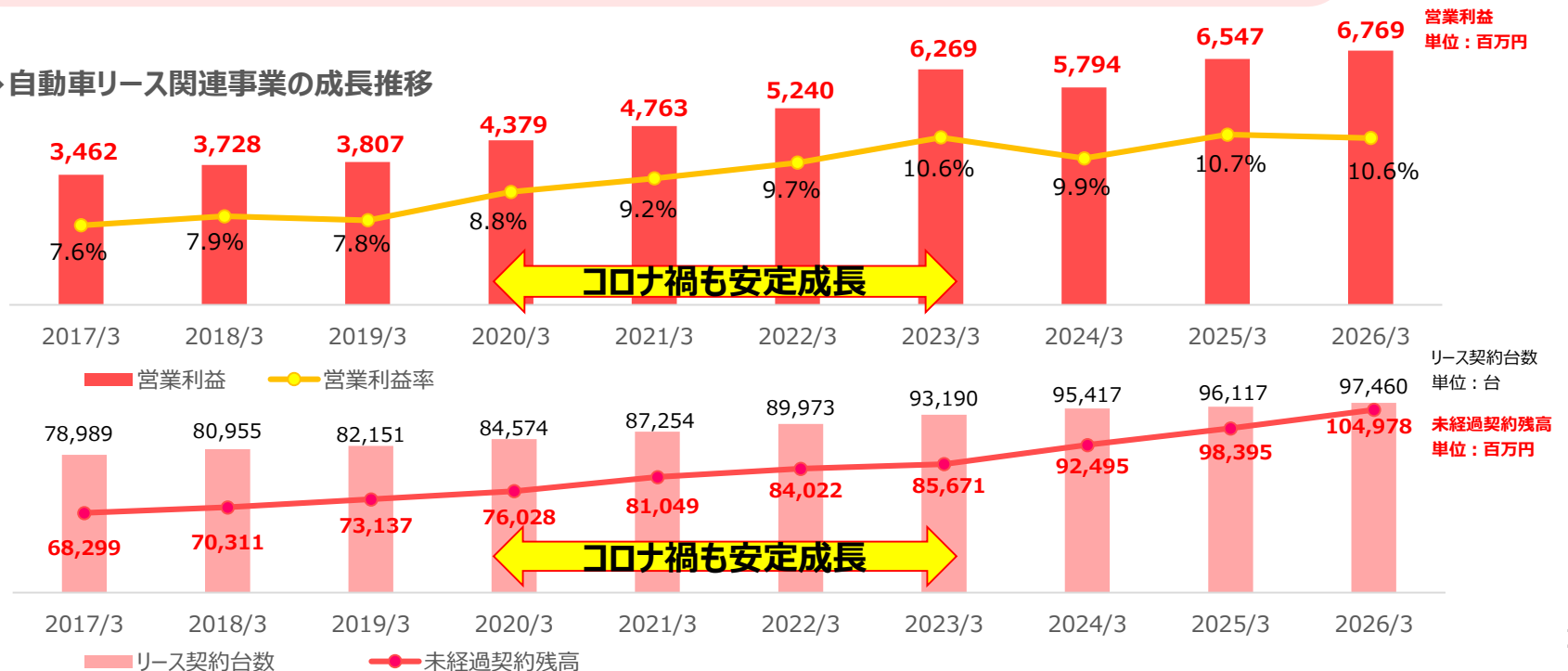
安定的な利益創出

**自動車リース関連事業は、グループの収益基盤事業として
今後も規模拡大に注力し、安定的な利益創出を実現します**

POINT

- 安定的な利益成長により、**グループの盤石な収益基盤を形成**
- EV化が進んでも、リース契約台数は今後も継続伸長が見込める
- 収益基盤事業の安定的な利益をベースに、**成長事業への投資を加速**
- コロナ禍においても**安定した業績を維持・成長**

◆自動車リース関連事業の成長推移



将来に向けた成長投資

①パーキング事業への積極投資

高成長かつ高収益なパーキング事業に積極投資を実施

■ 駐車場の新規設備投資による稼働率向上

キャッシュレス決済、フラップレス駐車場の導入を加速し、利便性向上による顧客獲得、稼働率の向上に繋げる

■ M&Aによる事業規模拡大

2022年3月に(株)オートリ(2023年4月にイチネンパーキングと合併)を子会社化

②海外事業への投資拡大

海外売上高比率20%の達成に向け、積極的な取り組みを実施

■ 注力地域、期待地域での事業拡大（詳細はP13）

※注力地域：タイ、期待地域：バングラデシュ、北米、中央アフリカ、モンゴル等

■ M&Aの更なる強化、スピードアップ

- 海外に一定の事業基盤を持つ国内企業のM&Aを推進
- 当社事業と親和性のある海外企業のM&Aを検討

将来に向けた成長投資～海外事業への投資拡大～

グループ拠点

4か国 (タイ、アメリカ、中国、ニュージーランド)

グループ会社

7社 ※非連結含む

◆タイ

TASCO THAILAND 【機械工具販売事業】
MARUI SUM / MARUI INDUSTRY 【合成樹脂事業】
ICHINEN CHEMICALS (THAILAND) 【ケミカル事業】

◆ニュージーランド

ICHINEN AUTOS NZ 【自動車リース関連事業】

◆アメリカ

ICHINEN USA 【機械工具販売事業】

◆中国

蘇州豊島機械配件有限公司 【機械工具販売事業】

海外戦略

■注力地域:タイにおける既存事業の拡大

- 空調工具の独自ブランド「TASCO BLACK」の商品ライン拡充・開発強化
- グループ商材のタイにおける拡販（タイ合併会社の有効活用）

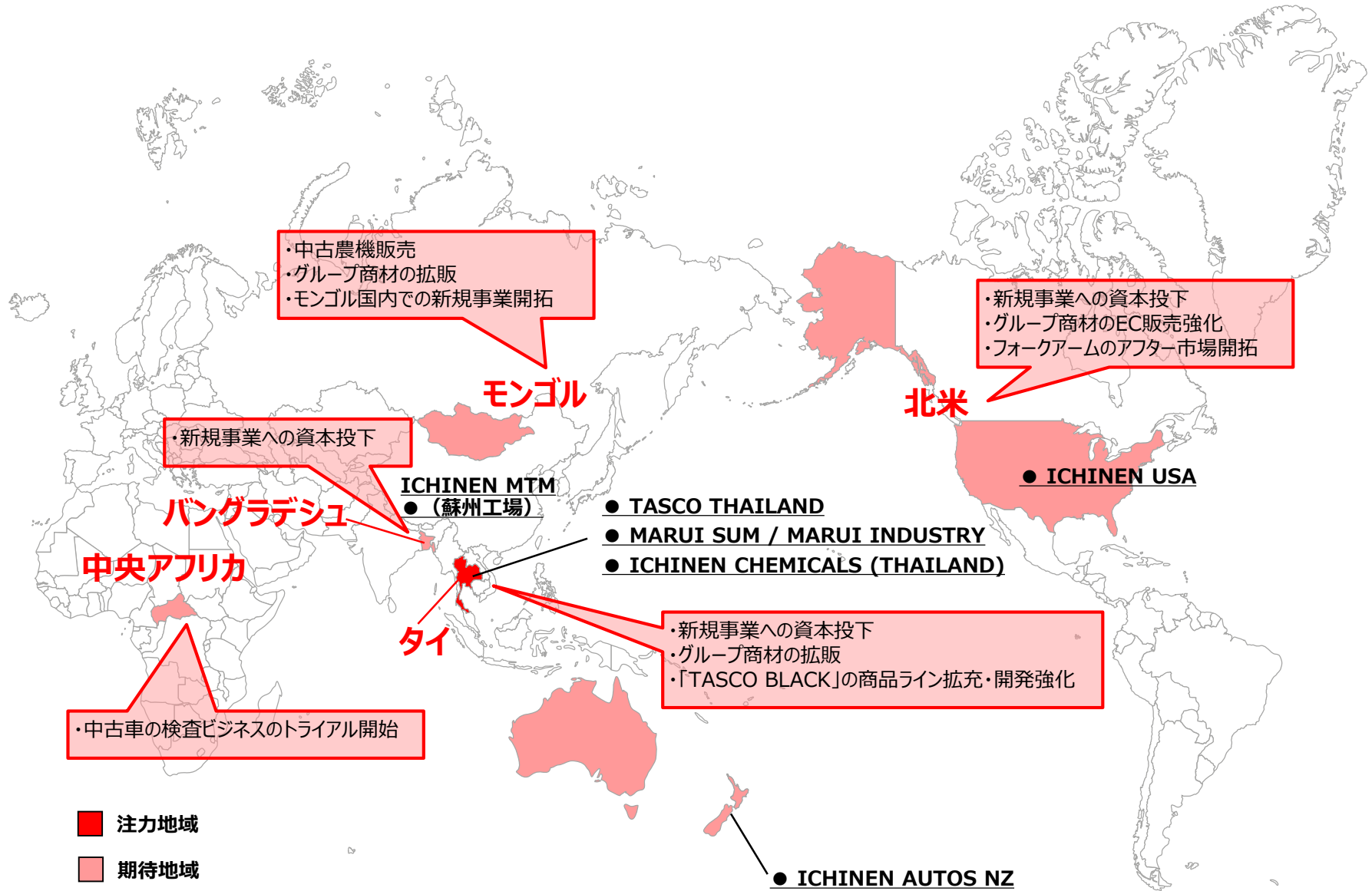
■期待地域:バングラデシュ、北米、モンゴル、中央アフリカ等における新規事業展開

- バングラデシュ、北米における新規事業展開の検討
- モンゴル、中央アフリカ等への中古車/中古農機の輸出販売の推進

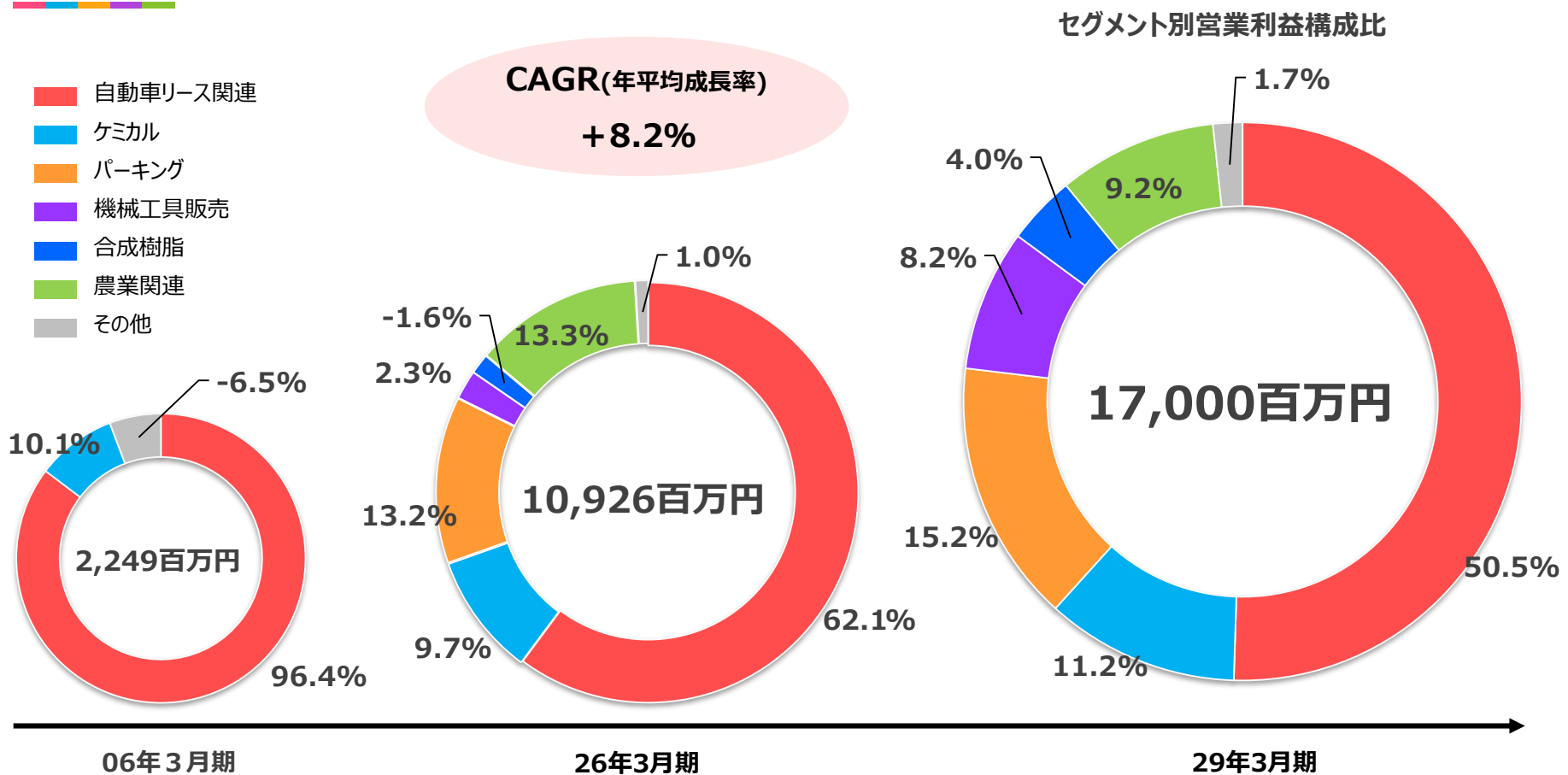
直近の進捗

- ✓ 2023/10/16付で、自動車用内外装部品の製造・販売を行うタイの子会社2社を含む**マルチ工業**がグループ入り
- ✓ 2025/8/1付で、タイでのイチネンケミカルズ製品の売上拡大を目的に、**ICHINEN CHEMICALS(THAILAND)** を設立

将来に向けた成長投資～海外事業への投資拡大～



イチネングループ経営方針～中期目標～



経営方針

- 既存事業**：自動車リース関連に次ぐ事業の柱の育成
(各セグメントの成長による収益源の分散化)
- 新規事業**：M&A・事業提携等による新規事業領域の拡充
- 財務方針**：財務健全性の維持と成長投資を両立

中期目標

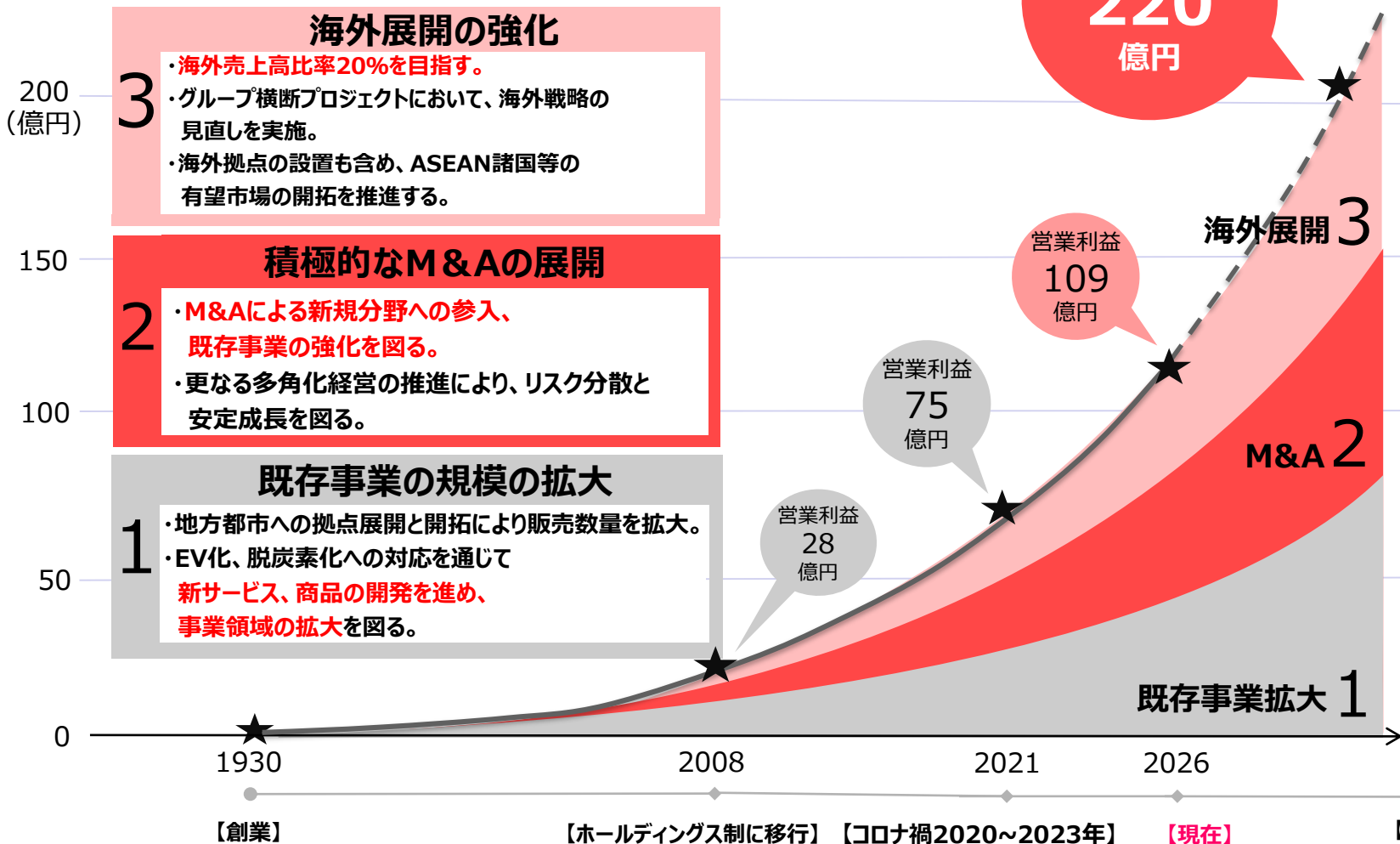
【中期目標】

- 営業利益**：170億円
- 自己資本**：920億円超
- 自己資本比率**：40%超

成長戦略

長期経営数値目標

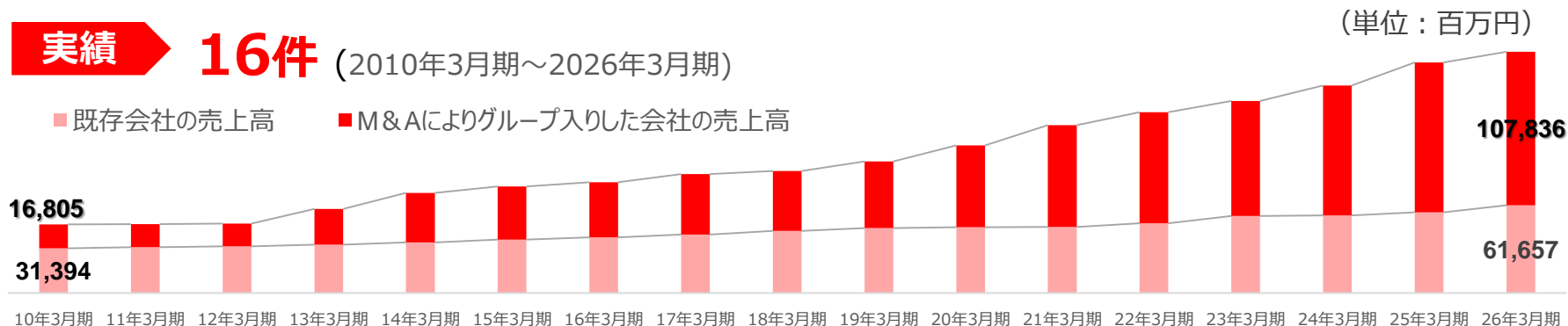
売上高 **2,300** 億円超 営業利益 **220** 億円超



目的 M&A活用により、事業規模・事業間シナジーの拡大や
海外戦略を加速化させ、**コングロマリット・プレミアム**を目指す

基準 事業領域を限定せず、グループ入り後**ただちに業績に寄与**すること

実績 **16件** (2010年3月期～2026年3月期)



直近の実績

◆ マルイ工業株式会社

海外拠点の獲得

【グループ入り】2023年10月16日

【事業内容】自動車内外装部品の製造・販売（合成樹脂事業）

【拠点】本社：新潟県 胎内市

海外：タイ（子会社2社あり）

◆ 日東エフシー株式会社

農業関連事業の規模拡大

【グループ入り】2023年11月30日

【事業内容】肥料の製造・販売（農業関連事業）

【拠点】本社：愛知県名古屋市

NEW 太陽肥料株式会社

農業関連事業の規模拡大

【グループ入り】2026年4月3日

【事業内容】肥料の製造・販売（農業関連事業）

【拠点】本社：茨城県神栖市

【プレスリリース】



新たな価値創出への挑戦

① 既存技術や事業を活かした新たな挑戦

既存事業や技術を活かし、新たな市場や新事業へ挑戦

【取り組み事例】

■ イチネン

既存の事業基盤を活用し、画像AIを活用した新サービスの事業化に挑戦。

◆ 損傷判定アプリ **AUX Checker**

(リース車両の原状復帰サービス)

オークスモビリティ、ACESの3社共同での事業実証により、従来比302%の原状復帰請求を実現。



■ イチネン製作所

長年培ってきた樹脂成形・加工技術を活かし、玩具・美容領域の新たな市場へ挑戦。

玩具分野：『おふろアクアリウム』

(日本おもちゃ大賞2025デジタル部門優秀賞受賞)

『totonoi link fit』『JUMP PIT』

(2026年販売予定)

美容分野：「ib」(ichinen beauty) ブランド設立。
ハンディファン・ヘアコーム等販売予定。

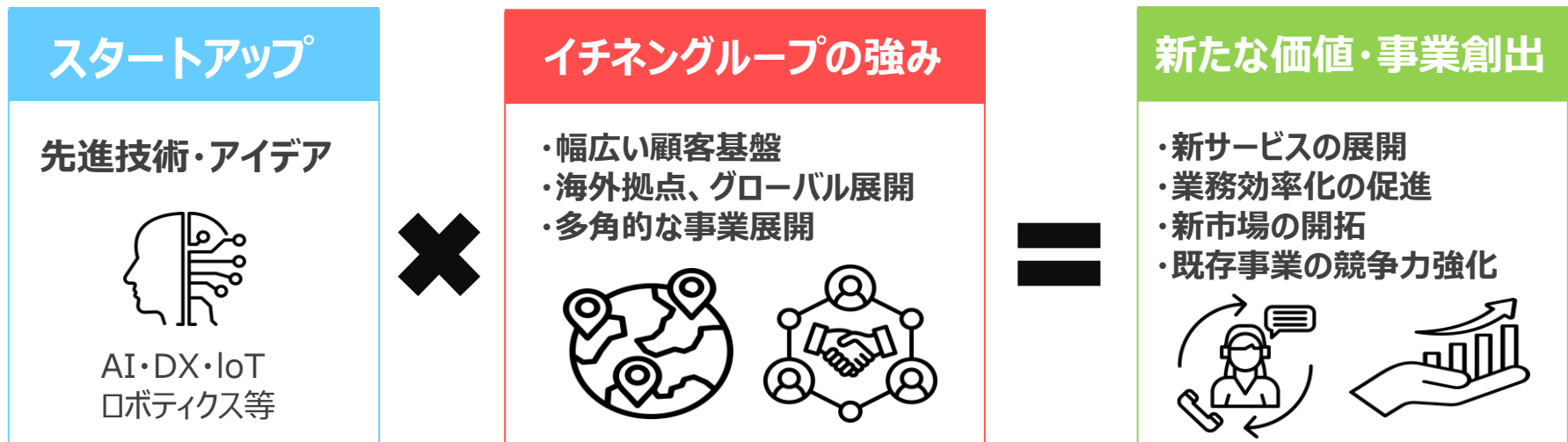


新たな価値創出への挑戦

②スタートアップとの共創による価値創出

スタートアップとの共創で新たな価値・事業を創出

単なる財務投資としてではなく、グループ事業との協業・技術活用を前提とした戦略投資。AI×DX×新サービスなどの技術を有する企業との連携を通じて、既存事業の高度化や新規事業創出を推進。



スタートアップ投資実績

9社 (2026年3月時点)

医療分野:3社、AI分野:2社、ロボット分野:1社、
プラットフォーム分野:2社、ソリューションビジネス分野:1社

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

高品質なメンテナンス付き自動車リースを軸に 車に関連する様々なサービスをワンストップで提供

事業内容

- ・オートリース：法人顧客向けメンテナンス付き自動車リース
- ・自動車メンテナンス受託：リース車両のメンテナンスを他のリース会社様より受託
- ・車両販売：リース満了車・外部仕入れ車両の販売
- ・燃料販売：「燃料給油カード」などの販売
- ・車体修理管理サービス：車体の外装修理サービスの提供

強み

- ・北海道から九州までをカバーする全27拠点体制
- ・全国に広がる提携整備工場のネットワークをフル活用
- ・独自の車両販売ルートの確立（ICHINEN AUTOS（N.Z））



成長戦略

- ・徹底したエリアマーケティングをベースとした台数規模の拡大
- ・リースアップ車の処分ルートの多様化
- ・個人リース市場の開拓

自動車リース関連事業の指標

事業売上高

64,135百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

6,769百万円
(2026年3月期実績)

リース/メンテナンス受託 契約台数

リース：**97,460台**
メンテ：**77,981台**
(2026年3月末時点)

燃料カード販売実績

発券枚数：**252,437枚**
給油数量：**222,396kl**
(2026年3月末時点)

提携整備工場 ネットワーク

全国約9,000社
(2026年3月末時点)

環境対応・省エネ・生産性向上など、顧客のニーズに応える 多彩なケミカル製品を開発・販売

事業内容

- ・プロユースケミカル事業：潤滑剤、防錆剤（自動車整備工場向け）等の販売
- ・テクノケミカル事業：燃料添加剤（火力発電所等向け）等の販売
- ・コンシューマケミカル事業：クインビューブランド（カーケミカル用品）等の販売
- ・新規事業開発：その他商材の開発、販売



ケミカル事業の指標

事業売上高

12,082百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

1,061百万円
(2026年3月期実績)

海外販売国

15か国
(2026年3月末時点)

部門別売上シェア

PC事業部：**47.7%** TC事業部：**27.6%**
 マリン営業部：**10.3%** 海外FC営業部：**4.6%**
 CC営業部：**8.7%** 新規事業開発部：**1.1%**
 (2026年3月期実績)

強み

- ・創業以来、産業用工業製品、家庭用化学製品の分野で独自の技術開発力とノウハウを保有
- ・確かな技術と厳しい品質管理でお客様に信頼されるケミカル製品を提供
- ・業界内で高シェアを誇る添加剤事業

成長戦略

- ・新たなニッチ市場におけるNo.1製品の開発を目指す
- ・脱炭素社会を見据えた環境配慮型製品の開発加速
- ・海外展開を加速し、販売地域、販売品目を拡大

安全・安心、利便性の高い「ストレスフリー」な駐車場運営により 高稼働・高収益を実現

事業内容

- ・コインパーキングの運営：
土地を借り上げ、初期投資費用、ランニングコストは全て当社が負担
- ・施設付帯駐車場の管理受託・運営：
病院、商業施設等の駐車場の設備投資から運営管理までを当社が受託

強み

- ・コインパーキングの収益性を高める小回りの利いた販売促進策
- ・病院等に付帯する立体駐車場の建設から管理運営までを一括して受注するPFI事業

成長戦略

- ・既存駐車場の売上拡大、収支改善
- ・新規情報源の開発による駐車場数の拡大
- ・キャッシュレス/フラップレス化等の推進によるサービス品質向上
- ・テッドスペースの有効活用（バイク駐輪用スペースの新設等）



東京科学大学様の
駐車場

パーキング事業の指標

事業売上高

8,169百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

1,436百万円
(2026年3月期実績)

中期目標

売上高 100億円
営業利益 20億円

地域別契約割合
(件数ベース)

関西 55.4%
関東 35.6%
(2026年3月末時点)

駐車場管理件数

コイン・立駐：**1,726箇所**
来客用駐車場：**214箇所**
管理受託：**61箇所**
(2026年3月末時点)

自動車/産業機械用部品・冷凍空調工具等、多種多様な商材を ラインナップし、自社オリジナル商品も数多く展開

事業内容

- ・イチネンアクセス：自動車部品・産業資材・各種工具などの販売
- ・イチネンMTM：フォークリフト用アームの製造
- ・イチネンTASCO：空調冷凍工具・計測機器等の販売
- ・イチネンネット：ネット販売事業
- ・イチネンロジスティクス：グループ内の物流事業

強み

- ・幅広い商品ラインナップを持ち自社ブランド製品も数多く展開
- ・TASCOブランドの空調工具は国内トップシェア
- ・セグメント内の各社販路を活用したクロスセル等、仕入・販売の両面における高いシナジー

成長戦略

- ・オリジナル製品の開発、販売強化による収益向上
- ・ネット通販事業のさらなる収益拡大
- ・脱炭素社会に向けた取扱い商材の拡充
- ・海外展開の強化
- ・物流機能の集約による効率化



機械工具販売事業の指標

事業売上高

38,019百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

251百万円
(2026年3月期実績)

中期目標

セグメント売上高
500億円超

海外拠点

3拠点
(アメリカ、中国、タイ)

製品紹介



第25回
経済産業大臣賞
受賞

イチネンTASCO
冷媒回収装置

"クワトロ"TA110VF

確かな技術力で遊技機部品、自動車用内外装部品等の 企画・デザイン・設計・試作・生産までを一気通貫で提供

事業内容

- ・遊技機部品事業：遊技機等のプラスチック製品のデザイン・製造・販売等
- ・合成樹脂事業：リサイクル樹脂・オリジナル再生樹脂の販売
- ・科学計測器事業：ガス濃度計や警報器、セラミックヒーター等の製造、販売
- ・自動車用内外装部品事業：エンブレムや自動車内外装部品の製造・販売



強み

- ・主要大手メーカーとの安定的な取引関係を維持
- ・製品のデザインから金型設計、成形、特殊加工、組立まで一気通貫の生産体制を構築

成長戦略

- ・既存技術を応用した新製品の開発・販売
- ・高付加価値な樹脂材料の拡販
- ・製品の生産効率向上・量産化
- ・海外事業展開の強化

合成樹脂事業の指標

事業売上高

19,029百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

▲170百万円
(2026年3月期実績)

中期目標

**セグメント売上高
300億円超**

海外拠点

タイ
(グループ会社2社)

新規取組紹介

イチネン製作所では既存事業で培った技術を生かし、ネクスプライズ事業を設立し、新規分野への挑戦を行っております。



『おふろアクアリウム』

肥料の製造・販売・輸入事業を軸に、自社農場の展開による 社会価値の創造にも挑戦

事業内容

- ・肥料事業：多種多様な肥料を製造・販売
- ・商社事業：明京商事(株)を通じた海外の化学・肥料製品の輸入・販売
- ・農園事業：ミニトマト・ピーマンの栽培、地域野菜の普及、6次産業化



強み

- ・肥料の原料調達から製造・出荷まで一貫した生産体制
- ・農家様への栽培技術指導等の独自ノウハウ
- ・大規模な次世代ハウスによる農作物の大量生産・販売

成長戦略

- ・農作業省力肥料の開発・販売強化、ラインナップ拡充
- ・気候変動に対応した肥料製品の開発、販売強化
- ・販売ルート多様化に向けた新規顧客開拓
- ・農業ベンチャー企業と連携したDXの推進

農業関連事業の指標

事業売上高

19,635百万円
(2026年3月期実績)

営業利益

1,453百万円
(2026年3月期実績)

肥料 年間生産量

124,554トン
(2026年3月期実績)

農作物 年間生産量

ミニトマト 335トン
パプリカ 25トン
ピーマン 256トン
(2026年3月期実績)

製品紹介

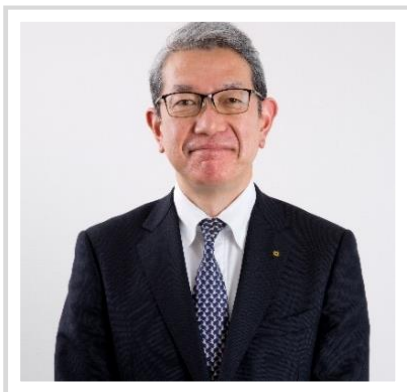
日東エフシーの一般家庭向けの肥料ブランド「自然暮らしより新しく「水に溶かして速く効く粉末液肥」と「水ですすめるカルシウム液肥」が2025年8月に新発売いたしました。



太陽肥料株式会社のご紹介



01 太陽肥料株式会社 会社概要



- 太陽肥料株式会社
TAIYO FERTILIZER CO.,LTD.
- 代表取締役社長 木村 平八
- 創立 1936年5月22日
- 本社 茨城県神栖市砂山4番地
- 資本金 300百万円
- 売上高 3,511百万円 (2025年6月期)

03 株式追加取得による完全子会社化の目的

太陽肥料は、国内において90年に亘り化成肥料、配合肥料、過りん酸石灰などを製造・販売しております。生産者に対する「施肥指導」として、土壌分析を行い、適切な肥料を使用できるよう支援を行うなど、農業現場における豊富な知見を有しております。本件の株式追加取得に伴い、太陽肥料が持つ肥料製造のノウハウ及び技術力と、当社グループの日東エフシーグループが持つ技術力を融合することで、既存顧客に対する製品提案の幅を広げ、更なるシェア向上及び販売拡大に繋げてまいりたいと考えております。

02 製品紹介



作物・使用時期・使用用途に合わせた各種肥料



石灰窒素入り化成肥料



有機入り化成肥料



緩効性窒素入り
化成肥料



被覆尿素入り
粒状配合肥料



緩効性窒素入り
粒状配合肥料



過りん酸石灰



苦土過りん酸石灰



微量要素肥料

曲げガラスを柱とした唯一無二の技術力を武器に 強化ガラス・合わせガラス等の多彩なガラス製品を展開

事業内容

- ・新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)：
曲げガラスの加工を柱とし、ビル建材・内装・ケース・車輛用などの多様な板ガラスの加工製品を製造・販売
- ・日石硝子工業(株)：
液晶調光ガラス、装飾合わせガラス、防音合わせガラス、強化ガラス、タペストリーガラスなど、住宅、オフィス、商業施設向けに多様な板ガラスの加工製品を幅広く製造・販売



新幹線はやぶさフロントガラス



東京証券取引所マーケットセンター



ヨドバシカメラマルチメディア梅田様
立体歩道橋

強み

- ・ガラス加工製品の専門メーカーとして長年積み上げてきた確かな技術力
- ・商業用施設やオフィスビル、美術館などあらゆる市場の顧客ニーズに対応

成長戦略

- ・都市圏の再開発案件等の早期情報収集及び受注強化
- ・生産効率の向上を目的とした機械化・DX化を推進

その他事業の指標

事業売上高

2,358百万円

(2026年3月期末実績)

営業利益

100百万円

(2026年3月期末実績)

NEWS !

2025年3月31日にグループ入り！

日石硝子工業株式会社のご紹介

住宅・オフィス・商業施設等向けのガラス製品を幅広く製造・販売し、大手企業へのOEM供給や自社製品の展開も行っています。新光硝子グループとの連携により、技術開発や原材料調達の効率化、商品ラインナップの拡充などの相乗効果が見込まれ、事業の拡大と収益性の向上が期待されます。

※日石硝子工業は2026年4月1日に新生ガラスと合併いたしました。

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

2026年3月期 事業別業績天気図



… 営業利益が前期比で増加。事業が好調で安定して成長している状態。



… 営業利益が前期比で横ばい～微減。事業に課題があり、成長が停滞している状態。

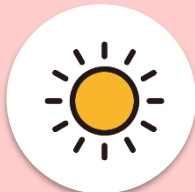


… 営業利益が前期比で減少。事業が不振で、業績が悪化している状態。

グループ全体

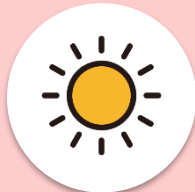
グループ全体の業績は堅調に推移しました。自動車リース関連事業は車両リースが順調に推移したことに加え、中古車相場高騰によりリース満了車処分の販売単価が好調に推移したことから売上・利益が増加しました。パーキング事業、機械工具販売事業、農業関連事業は販売が増加しました。また、前連結会計年度より連結子会社となった、日石硝子工業(株)の業績が寄与したこと等によりその他事業の販売が増加しました。これらの結果、売上高、営業利益、経常利益の項目で過去最高値を更新しました。

自動車リース関連



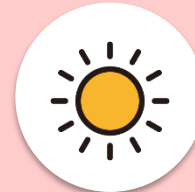
- ・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
- ・リース満了車処分の販売単価が上昇。

ケミカル



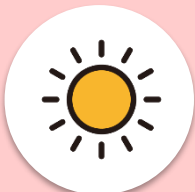
- ・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品並びに燃料添加剤及び船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
- ・一般消費者向けケミカル製品の販売は減少。
- ・販売増加に加えて原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により利益が増加。

パーキング



- ・新規駐車場の開発が順調。
- ・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

機械工具販売



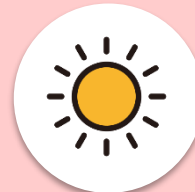
- ・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに産業機械部品の販売は順調に推移。
- ・DIY用品等の販売は減少。

合成樹脂



- ・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移。
- ・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売は前年同期に大口の受注を獲得した反動により、大幅に減少。

農業関連



- ・既存農場における農作物の販売数量は増加したものの、販売単価は下落。
- ・肥料製品の販売が順調に推移したことに加え、肥料の販売単価が上昇した影響により利益が増加。

2026年3月期 連結損益計算書 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2025年3月期		2026年3月期		前期比 増減率	2026年 3月期 計画	計画比
		金額	構成比	金額	構成比			
売上高		154,920	100.0%	162,254	100.0%	104.7%	162,000	100.2%
	自動車リース関連	61,361	39.3%	64,135	39.2%	104.5%	60,699	105.7%
	ケミカル	11,854	7.6%	12,082	7.4%	101.9%	12,472	96.9%
	パーキング	7,905	5.1%	8,169	5.0%	103.3%	8,304	98.4%
	機械工具販売	36,085	23.1%	38,019	23.3%	105.4%	39,466	96.3%
	合成樹脂	19,026	12.2%	19,029	11.6%	100.0%	21,804	87.3%
	農業関連	17,578	11.3%	19,635	12.0%	111.7%	18,150	108.2%
	その他	2,153	1.4%	2,358	1.5%	109.5%	2,143	110.0%
	調整額	▲1,044	-	▲1,176	-	-	▲1,038	-
売上総利益		34,024	22.0%	35,454	21.9%	104.2%	35,537	99.8%
販売管理費		23,744	15.3%	24,527	15.1%	103.3%	25,137	97.6%
営業利益		10,279	6.6%	10,926	6.7%	106.3%	10,400	105.1%
経常利益		10,318	6.7%	10,998	6.8%	106.6%	10,030	109.7%
親会社株主に帰属する中間純利益		6,657	4.3%	7,652	4.7%	114.9%	6,200	123.4%

自動車リース関連事業は車両リースが順調に推移したことに加え、中古車相場高騰によりリース満了車処分の販売単価が好調に推移したことから売上・利益が増加しました。パーキング事業、機械工具販売事業、農業関連事業は販売が増加しました。また、前連結会計年度より連結子会社となった、日石硝子工業(株)の業績が寄与したこと等によりその他事業の販売が増加しました。

これらの結果、売上高、営業利益、経常利益の項目で過去最高値を更新しました。

2026年3月期 セグメント別営業利益 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2025年 3月期	2026年 3月期	前期比 増減率	2026年 3月期 計画	計画比
		金額	金額		金額	
営業利益		10,279	10,926	106.3%	10,400	105.1%
	自動車リース関連	6,547	6,769	103.4%	5,467	123.8%
	ケミカル	848	1,061	125.2%	988	107.5%
	パーキング	1,265	1,436	113.5%	1,358	105.8%
	機械工具販売	▲141	251	-	603	41.7%
	合成樹脂	336	▲170	-	511	-
	農業関連	1,168	1,453	124.3%	1,228	118.3%
	その他	236	100	42.3%	230	43.5%
	調整額	19	24	-	15	-

(自動車リース関連)

・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
・リース満了車処分の販売単価が上昇。

(ケミカル)

・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品並びに燃料添加剤及び船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
・一般消費者向けケミカル製品の販売は減少。
・販売増加に加えて原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により利益が増加。

(パーキング)

・新規駐車場の開発は順調に推移。
・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

(機械工具販売)

・自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに産業機械部品の販売は順調に推移。
・DIY用品等の販売は減少。

(合成樹脂)

・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移。
・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売は前年同期に大口の受注を獲得した反動により、大幅に減少。

(農業関連)

・既存農場における農作物の販売数量は増加したものの、販売単価は下落。
・肥料製品の販売が順調に推移したことに加え、肥料の販売単価が上昇した影響により利益が増加。

2026年3月期 連結貸借対照表 (百万円未満切捨)



■ 資産の部

単位：百万円	2025年 3月	2026年 3月	増減額
流動資産	96,914	97,826	+911
現金及び預金	9,162	10,644	+1,482
リース債権及びリース投資資産	31,229	33,685	+2,455
商品及び製品	14,920	14,467	▲452
固定資産	108,376	113,690	+5,313
賃貸資産	62,250	63,946	+1,695
建設仮勘定	539	3,433	+2,894
繰延資産	79	86	+6
資産合計	205,371	211,603	+6,232

■ 負債の部

単位：百万円	2025年 3月	2026年 3月	増減額
流動負債	57,506	67,884	+10,377
支払手形及び買掛金	15,015	15,793	+778
短期有利子負債	30,282	39,438	+9,155
固定負債	82,468	71,574	▲10,894
長期有利子負債	78,391	67,485	▲10,906

■ 純資産の部

	2025年 3月	2026年 3月	増減額
純資産合計	65,395	72,145	+6,749
利益剰余金	59,054	64,127	+5,072
負債・純資産合計	205,371	211,603	+6,232

《資産の部》

- 「現金及び預金」の増加 14億82百万円
- ファイナンス・リース取引の契約増加による「リース債権及びリース投資資産」の増加 24億55百万円
- 「賃貸資産」の増加 16億95百万円
- 「建設仮勘定」の増加 28億94百万円

《自己資本比率》

- 2026年3月期の自己資本比率33.8% ⇒中期数値目標は、自己資本920億円超、自己資本比率40%超

2026年3月期 連結キャッシュ・フロー等 (百万円未満切捨)



■ キャッシュ・フロー

単位：百万円	2024年3月	2025年3月	2026年3月	前期比増減額
営業活動	5,266	4,018	9,451	+5,433
投資活動	▲16,541	▲2,067	▲4,449	▲2,381
財務活動	9,636	▲1,329	▲3,685	▲2,355

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー：+94億51百万円
 (主な要因) ⇒「税金等調整前当期純利益」：+115億95百万円
 オペレーティング・リース取引の契約増加による「賃貸資産の増加」：△180億13百万円、
 「減価償却費」：+191億2百万円、
 「リース債権及びリース投資資産の増加」：△32億86百万円、「棚卸資産の減少」+3億83百万円
 「仕入債務の増加」：+4億50百万円、「法人税等の支払額」：△32億93百万円、「法人税等の還付額」：+16億52百万円
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フロー：△44億49百万円
 (主な要因) ⇒「有形及び無形固定資産の取得による支出」：△48億76百万円
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フロー：△36億85百万円
 (主な要因) ⇒「借入れによる収入」：+176億円、「社債の発行による収入」：+79億61百万円、
 「借入金の返済による支出」：△251億50百万円、「コマーシャル・ペーパーの減少」：△20億円、
 「社債の償還による支出」：△2億円、「配当金の支払額」：△17億71百万円

■ 設備投資・減価償却

単位：百万円	2024年3月	2025年3月	2026年3月	前期比増減額
設備投資	18,952	21,623	24,747	+3,124
うちリース資産	17,404	19,349	19,649	+299
減価償却	17,855	18,661	19,102	+441
うちリース資産	15,681	16,130	16,581	+451

2027年3月期 計画 (連結) 【2026年5月1日公表数値】 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期計画	前期比の主な増減要因
売上高	自動車リース関連	61,361	64,135	63,861	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	11,854	12,082	12,806	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	7,905	8,169	8,597	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善、設備リニューアルによる稼働率向上
	機械工具販売	36,085	38,019	42,866	高単価・高収益商材の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	19,026	19,029	22,349	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	17,578	19,635	21,115	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	2,153	2,358	2,591	
	調整額	▲1,044	▲1,176	▲1,185	
	合計	154,920	162,254	173,000	
営業利益	自動車リース関連	6,547	6,769	5,707	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	848	1,061	1,228	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	1,265	1,436	1,456	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善
	機械工具販売	▲141	251	1,007	高収益な自社オリジナル商品の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	336	▲170	644	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	1,168	1,453	1,284	前期に肥料製品の販売単価が好調だったことによる反動減
	その他	236	100	161	
	調整額	19	24	13	
	合計	10,279	10,926	11,500	
経常利益		10,318	10,998	10,780	
親会社株主に帰属する当期純利益		6,657	7,652	6,910	
株主資本利益率 (ROE)		10.65%	11.24%	9.34%	
総資産経常利益率 (ROA)		5.06%	5.28%	4.99%	

2027年3月期 四半期セグメント別利益計画 (百万円未満切捨)



単位：百万円		第1四半期	第2四半期（累計）	第3四半期（累計）	第4四半期（累計）
自動車リース関連	売上高	16,072	31,914	48,244	63,861
	売上総利益	3,250	6,752	9,525	12,932
	営業利益	1,430	3,106	4,103	5,707
ケミカル	売上高	3,018	6,252	9,663	12,806
	売上総利益	1,237	2,569	3,912	5,183
	営業利益	226	571	916	1,228
パーキング	売上高	2,098	4,251	6,441	8,597
	売上総利益	577	1,183	1,792	2,344
	営業利益	356	738	1,128	1,456
機械工具販売	売上高	10,464	21,225	32,042	42,866
	売上総利益	2,007	4,082	6,023	8,068
	営業利益	185	514	678	1,007
合成樹脂	売上高	6,236	12,529	17,819	22,349
	売上総利益	1,281	2,470	3,671	4,709
	営業利益	252	403	616	644
農業関連	売上高	5,687	9,917	15,460	21,115
	売上総利益	1,099	1,702	2,557	3,362
	営業利益	519	630	980	1,284
その他	売上高	599	1,255	1,937	2,591
	売上総利益	156	359	574	780
	営業利益	0	58	105	161
調整額	売上高	▲267	▲543	▲889	▲1,185
	売上総利益	▲43	▲83	▲126	▲168
	営業利益	1	6	10	13
合計	売上高	43,907	86,800	130,717	173,000
	売上総利益	9,564	19,034	27,928	37,210
	営業利益	2,969	6,026	8,536	11,500

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 企業価値向上に向けた取り組み

株主還元について

株主還元方針

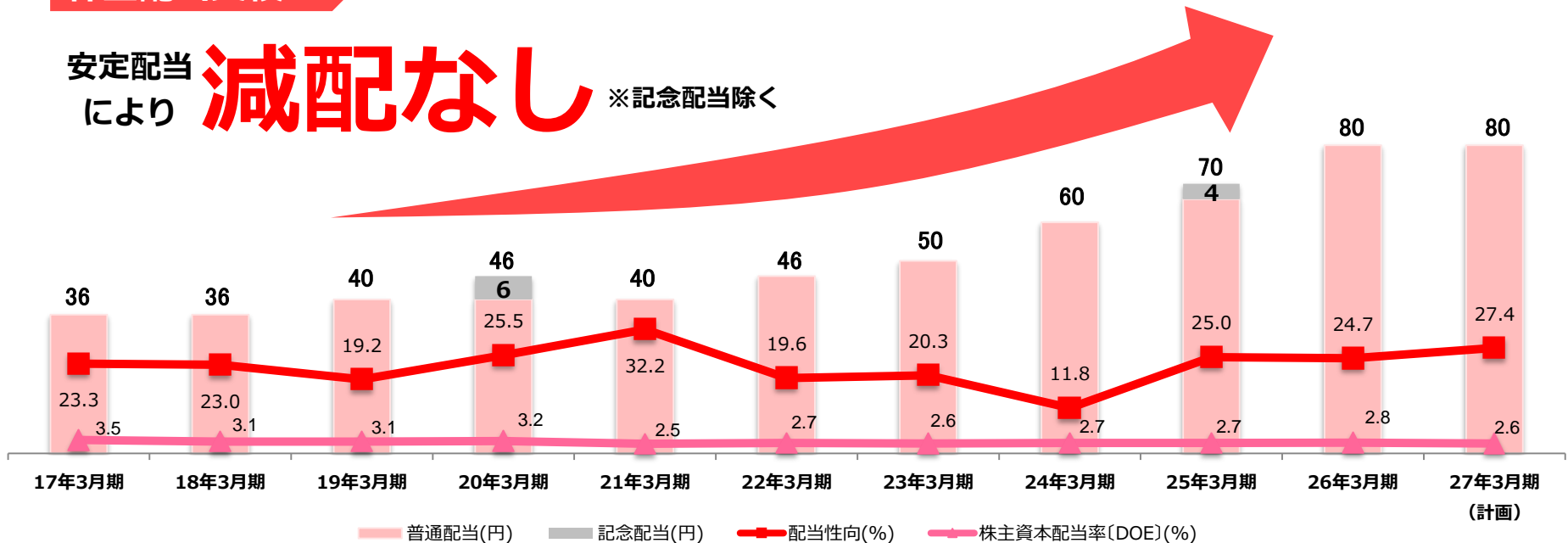
配当性向**20%~30%**程度を目安に、**安定的な配当**の実施を目指します

1株あたりの配当金（予想）

中間期末	期 末	年 間
40円	40円	80円

株主配当実績

安定配当により **減配なし** ※記念配当除く



当社は2023年3月末日時点の株主名簿に記載された株主様への贈呈をもって、株主優待制度を廃止いたしました。

株価について



直近の株価

2,111 円

※5月20日終値ベース

その他指標

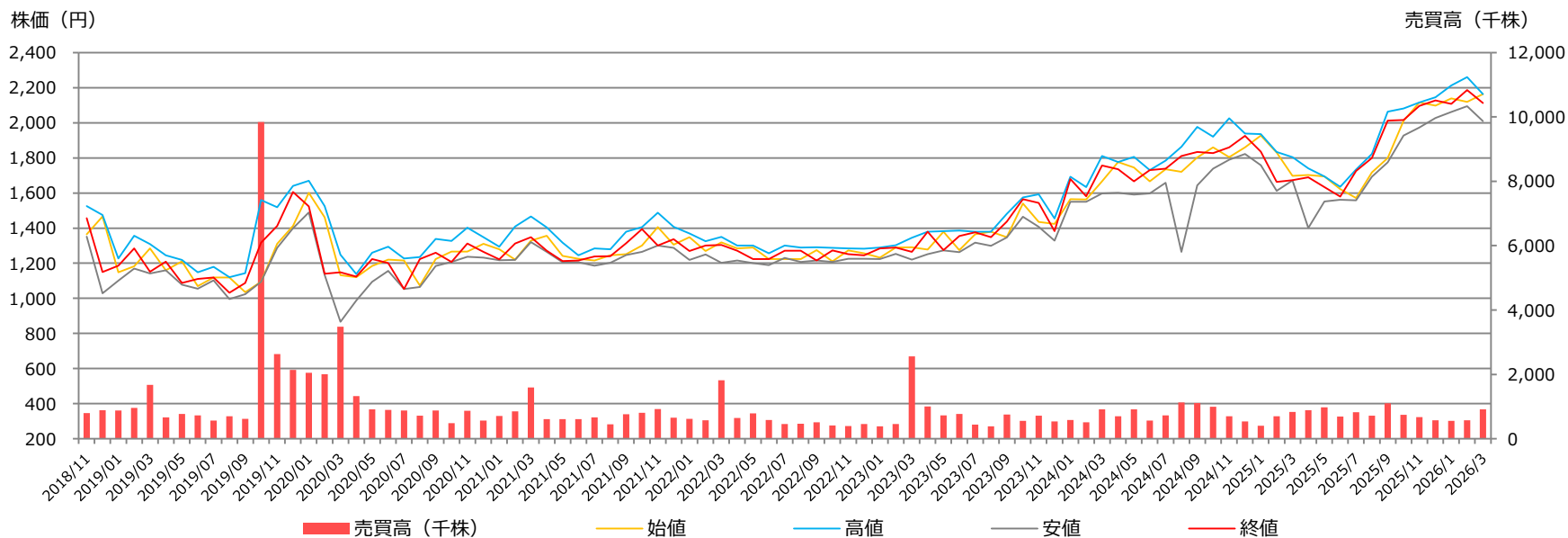
※5月20日終値ベース

時価総額 **501億円**

配当利回り **3.79%**

PBR **0.70倍**

株価の推移



※株価及び売買高の表示は月次ベースです。(株価は月末時点の数値、売買高は月の売買高の合計)

01

1. イチネングループについて

02

2. イチネングループが向かうところ

03

3. イチネングループの事業紹介

04

4. 決算報告・今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. **企業価値向上に向けた取り組み**

環境

●各事業の取り組み

- ◆ケミカル事業：脱炭素社会に貢献するバイオマス添加剤
 - ・ バイオマス発電向けの燃料添加剤「バイオトニックシリーズ」
 - ・ 汎用樹脂向けバイオマス添加剤「ONEバイオ」
 - ・ 植物由来の原料を使用した「Green JIP」シリーズ など
- ◆パーキング事業：交通渋滞緩和による環境負荷の低減
- ◆機械工具販売事業：自社ブランドの冷媒回収装置がオゾン層保護・地球温暖化防止大賞受賞！
- ◆合成樹脂事業：リサイクルペレットの製造/販売
- ◆農業関連事業：被覆尿素的の殻が残ることが無く、環境にやさしい省力栽培を可能にする肥料
 - ・ エコフレンズN20
 - ・ テンポロン（政令指定土壌改良資材）など

イチネングループでは、事業活動や提供する商品・サービスが地球全体の環境にできる限り負荷を与えないよう最大限努めております。



社会（人的資本）

●農業を通じた地域貢献

日本の誇るべき農業を通じて雇用を促進させ、地域コミュニティとの連携も行い、地域活性化に貢献できるよう努力し、安全、安心、そして美味しい野菜をお届けします。

さらに、農場では海外からの技能実習生や特定技能生も受け入れており、途上国への技術の移転や普及に農業を通じて貢献できるよう取り組んでまいります。



ガバナンス

●取締役会の監査機能強化および多様性の強化

女性取締役比率

30.0%

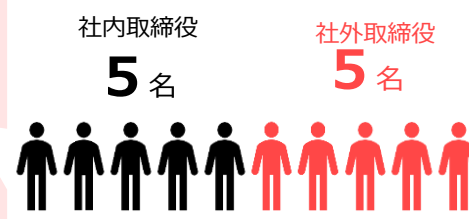
(2025年6月17日時点)



社外取締役比率

50.0%

(2025年6月17日時点)



●コンプライアンス・リスク管理体制

当社グループは、法令遵守とリスク管理を持続的成長の基盤と位置付けています。予防的視点での発生防止と、戦略的視点での適正管理を両立し、子会社を含む全社で情報共有と迅速な対応を実施しています。



◆基本方針

- ◆ リスク＝予期せぬ損失の可能性と定義
- ◆ 発生防止・許容範囲での制御を徹底
- ◆ リスク管理を経営の重要課題として位置付け

◆リスク対応の区分

- ◆ 極小化すべきリスク（事務・システム等）は防止策を強化
- ◆ 引き受けるリスク（投融資等）は自己資本等を踏まえ適正水準に制御

◆管理体制

- ◆ 内部管理体制を整備し、全社的に実行
- ◆ 子会社のリスクは担当役員、所管部門、コンプライアンス・リスクマネジメント委員会が連携し指導・助言

ウェブサイト・資料のご案内



IRサイト : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/>

イチネンホールディングス IR

検索

IRサイト



IRライブラリー

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library/>



IRカレンダー

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/calendar/>

今後の説明会スケジュール及び過去の説明会の動画（※）についてもこちらよりご確認いただけます。

※説明会の動画については一部のみの公開となっております。



統合報告書・TCFDレポート発刊のご案内



統合報告書

東証プライム上場企業として、非財務情報の開示を一層強化するため、2021年よりグループ横断の社内プロジェクトを組成し、統合報告書の制作を進めてまいりました。

イチネングループの企業価値創造に向けた取り組みを掲載しておりますので、下記URLより是非ご覧ください。

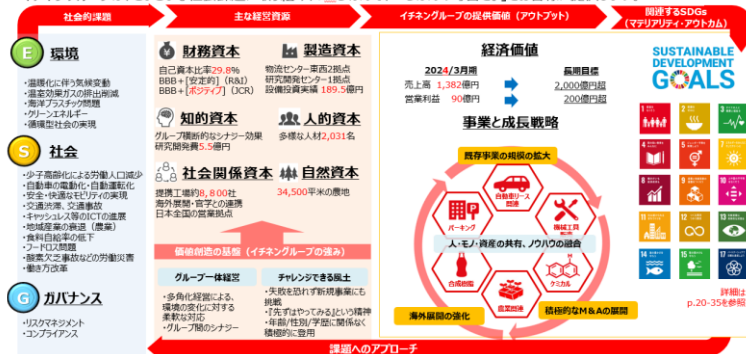
URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library6/>



過去のTCFDレポートも含め、QRコードよりアクセスできます⇒

価値創造モデル

イチネングループは、さまざまな社会課題に取り組み、「いちねんで、いちばんの毎日。」をお客様に提供します。



TCFDレポート

2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードにより、東証プライム上場企業には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに基づいた気候変動問題に対する情報開示が求められています。

現状において、当社グループが認識している気候変動問題に係るリスク、機会、並びにそれらへの対応策等について、『イチネングループTCFDレポート』として取りまとめましたので、是非下記URLよりご覧ください。

URL : <https://www.ichinenhd.co.jp/environment/tcfd/>



過去のTCFDレポートも含め、QRコードよりアクセスできます⇒



ご清聴ありがとうございました。



ICHINEN HOLDINGS

【9619】

このプレゼンテーション資料には、現時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。実際の業績は、今後のさまざまな要因によって、これらの計画・見通しとは異なる可能性があります。

弊社のIRニュースはこちらよりご覧いただけます。
<https://www.ichinenhd.co.jp/ir/news/>

